

【震災募金口座】 振替 00140-9-180881
宗教法人日本バプテスト連盟総務部

持続可能な支援を求めて～福島3教会によるミーティングを開催しました 濱野道雄 東日本大震災被災地支援委員会原発課題班

あゆみの家キリスト教会、郡山コスモス通りキリスト教会、福島主のあしあとキリスト教会の、福島3教会の皆さんによる、原発課題班の定期ミーティングが行われました。9月19日、Zoomによる会議でしたが、郡山教会をサテライトとして、3教会から8名の方々が参加して下さいました。3教会が直接集まったのミーティングは実はまだ2回目です。2011年に東京電力福島第一原子力発電所の事故が起こった直後は、専門家を招いての情報共有会などで3教会の皆様にお集まりいただくことがありました。しかしその後、教会員の皆様同士が直接会う機会がなかなか設けられず、牧師たち中心の集まりにせざるを得ない状況が続いたことが長年の課題でしたので、昨年3教会の教会員の皆さんと共に集う第1回目のミーティングが出来て大変嬉しく思いました。ところがその後、新型コロナウィルスの影響で2回も予定されていたミーティングがキャンセルされる中、ようやく今回のミーティングが開催できました。金丸現地支援委員長、野中公害問題特別委員会委員長も陪席し、東日本委員会からは大城戸事務局長と私の参加でした。

まずそれぞれの教会から保養プロジェクト等の実施状況の報告がありました。今年はコロナの影響で計画の半分以下の実施になっていますが、それでも成人ドック等、必要な検査が行われています。また例えば大島博幸 主のあしあと教会牧師は福島キリスト教連絡会放射能対策室の副代表を務められる等、皆様の独自の取り組みを伺う事ができて幸いでした。

そして今回の大きなテーマは「いかに持続可能な支援にしていけるか」でした。残念ながらセシウム137の半減期までにはまだ20年以上

ありますので、最低でもそれを迎える2041年までは支援を持続可能にする必要があります。そのためには・3教会が主体的に担える体制にしておくこと（決して現地丸投げにするのではなく）・その現地の声を全国の諸教会・伝道所と分かち合い続ける事・支援の内容をvariety状況に合わせて、「必要な人に必要なものを」届けられるよう柔軟に変えること・現在の会計状況では2020年代後半に活動が厳しくなるため、継続して年間200万程の募金を全国に呼びかけつつも、原発再事故に備えて取り分けた3千万円の内原発事故対策支出引当金を持続可能な活動のために限定的に使用すること、等の話し合いがスタートしたところです。

来年には事故を起こした原発から燃料の塊を取り出す計画がされており（そのために汚染水をこのタイミングで海洋放出するので、それも問題です）、やはり安全性に注視すべき状況は続きます。必要な人に、必要なことを、持続可能に、共に祈りつつ取り組んでいきましょう。「あなたがたの天の父は、これらのものがみな、あなたがたに必要なことを御存じである。」（マタイ6:32）

画像中央はサテライト(郡山コスモス通り教会)に参加して下さった福島3教会の皆様



「東日本・津波・原発事故大震災」発生から10年を前にして 大島博幸 福島主のあしあとキリスト教会牧師

2万人以上の死者・行方不明者を出した「東日本大震災」から、来年3月で10年を迎えます。東北各地では、鉄道や道路の再開、復興自動車道の新設、低地のかさ上げ、巨大で強靱な防波・防潮堤の建設等の復興が形となって現れています。これと共に、青森・岩手・宮城・福島の各県に「震災伝承施設」が建設・指定されています。それらの施設は、①災害の教訓が理解できる、②災害時の防災に貢献できる、③災害の恐怖や自然の畏怖を理解できる、④災害における歴史的・学術的価値がある等の理念で設置され、2020年7月時点、青森6、岩手81、宮城119、福島34の計240施設があります。

2020年9月20日、福島県は双葉町に「東日本大震災・原子力災害伝承館」を開館しました。県が保管・収集した約24万点の資料の内、約170点が展示されています。開館初日、礼拝後に訪ねました。展示は、原発誘致、震災と原発事故前の生活、複合災害の発生、混乱と長期の避難、復興への歩みまでがエリアに分けて伝えています。「伝承館」は第一原発の北約3kmにあり、その意味でも存在意義は大きいと思います。そして、改めて福島は「地震・津波・原発事故大震災」の複合被災地であること、また「原子力緊急事態宣言」は現在も発令中であることを思い起こしました。双葉町は放射線量が高く、全町避難が続く帰還困難区域です。今年3月14日のJR常磐線全線開通を前に、「伝承館」最寄の「双葉駅」周辺の一部と、町の面積の4%にあたる町北東部の避難指示が解除されました。「伝承館」周辺は、徹底した除染で空間線量は低いのですが、双葉駅周辺はまだ放射線量の高い区

域があります。現在、福島での震災報道は、第一原発のトリチウムを含んだ汚染水海洋放出問題、原発事故原因追及の訴訟、汚染土の運搬・保管・処分等、原発事故関連が中心です。そうした状況で聖書を読み、教会の活動が続いています。福島県には、あゆみの家、郡山コスモス通り、福島主のあしあとの3教会があり、それぞれ課題を負いつつ、活動を行っています。主のあしあと教会は、旧旭町教会を出てから教会員宅で礼拝を続けていますが、先日近郊の果樹園の広場をお借りして「野外礼拝」を行いました。天候に恵まれ、広々とした場所で十分距離を保ち、発電機でキーボードを使い、思いっきり賛美し、礼拝しました。

今後も、複合被災地と被災の方々、さらに福島の3教会を覚えてお祈りをお願いいたします。

写真は野外礼拝の様子



2020年度震災募金（10月現在）は66万円（目標400万円）をお献げいただきました。ここから感謝申し上げます。

2020年4月～2020年10月には次の22名・件の方にお献げいただきました（受付順、敬称略）

久留米荒木、藤沢、那覇新都心、古賀、諫早、横須賀長沢、丸亀城東町、佐世保、百合丘教会 北村賢、久保祐子、福岡、調布、四日市、日立、福岡、恵泉、久保祐子、市川八幡、シオン山、日立、盛岡、福岡、

